

大府市と東浦町にまたがる、あいち健康の森周辺地区のウェルネスバレー。健康・医療・福祉・介護関連の集積を生かした健康長寿の一大拠点の形成を目指しており、ここにきて構想実現に向け、動きが活発化してきた。11月18日に活動の推進主体となる推進協

議会が立ち上がる。それまでの間、住民にウェルネスバレーそのものを身近に感じてもらうため、健康長寿に関連した企業の実証試験の場として協力するほか、高齢者向けの講座を開催するなど啓発、機運の盛り上げに努める
(大府)

あいち健康の森周辺地区のウェルネスバレー

構想実現へ動き活発化



農作業の負担を軽減する器具の実証試験を始めた

8月末から、大府市半月メーカーの旭ゴム化工(本町で企業の製品開発に向け、社名古屋市千種区)と中京大実証試験が始まった。こ 大学が共同で開発しているうした協力は今回が初め 腰部負担軽減器具で、農作業時に腰にかかる負担を軽減する。
ゴム・プラスチック製品 減する。

実証試験は 営農者6人に 器具を装着して農作業してもらい、使い勝手などをヒアリングする。想定する利用者の生の声を実際の製品化に生かす狙いで、今後

11月に推進協議会発足

企業が実証試験を開始 住民啓発フォーラムも

も9月下旬まで3回ほどデータを収集する計画だ。
また、ウェルネスバレーに立地する国立長寿医療研究センターが、高齢化にもなう運転技能の低下を予防する研究を進めていることから、住民向けの交通安全全ドライバークラス講座を開催し、研究成果などを知ってもらう。

夕を取得し、運転技能の低下予防に生かしてもらう。ウェルネスバレーは09年3月に今後の方針をまとめた基本計画を策定しているが、具体的な活動として住民にはまだまだなじみが薄いのが現状。
一大拠点を形成するためには、住民を含めた機運の盛り上げが必要なことから、今年2月に推進協議会設立に向けた準備委員会を立ち上げた。11月18日には設立記念フォーラムを開催する。約200人の住民らの参加を見込んでいる。

今月15日に第1回を開催する予定で、大府市の交通安全モデル事業に選ばれている同市吉田地区の「吉田まち青バト隊」の高齢ドライバーを対象に月1回計5回開催する。定期的にデータ体制を整える。

推進協議会の設立に よって、ウェルネスバレーが健康長寿の一大拠点として、全国に向けて情報を発信できる